

別記様式（第 5 条関係）

会 議 録

会議の名称		令和 6 年度 第 2 回福津市環境審議会
開催日時		令和 7 年 3 月 2 1 日(金) 午後 1 時 3 0 分～
開催場所		福津市役所本館 2 階 大会議室
委員名		出席委員 鈴木 慎也会長・豊貞 佳奈子副会長 栗田 喜久委員・村上 浩一委員・藤井 美智子委員・濱 由希子委員・有田 八郎委員・長濱 幸一委員・大庭 也寸志委員 欠席委員 早渕 百合子委員
所管課職員職氏名		市民共働部長 香田 知樹 うみがめ課長 芹野 眞里子 うみがめ課主幹 堤田 達也 清掃対策係長 高山 大樹 環境づくり係長 坂本 剛章 環境づくり係 中村 千聖
会 議	議 題 (内 容)	報告議案 ・議題 1 福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について ・議題 2 第 3 次福津市環境基本計画の策定について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	-
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	・次第 ・福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について/第 3 次福津市環境基本計画の策定について ・近隣自治体の状況
会議録の作成方針		録音テープを使用した要点記録
その他の必要事項		早渕 百合子委員が欠席

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
○開会のことば	早淵委員の欠席報告
○会長挨拶	
○資料確認	
○会議録確認	
鈴木会長	福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第9条第2項の規定により、会議録確認を豊貞副会長に依頼。
○委員会成立宣言	
鈴木会長	委員10名のうち9名出席。福津市環境基本条例第22条第2項の規定により、本日の委員会が成立。
○会議公開の了承確認	
	傍聴なし
○審議	
事務局	議題1について説明 福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について ・福津市は区域施策編を策定する努力義務が課せられている ・区域施策編策定の目的はCO2排出量の削減（令和12年度までに2013年比で46%、令和32年までに100%削減） ・福津市の分野別CO2排出量では、運輸部門と家庭部門の割合が高い ・地球温暖化対策には緩和と適応という考え方があり、区域施策編は緩和にあたる ・福津市の自然環境や地理的特徴、財政状況などに合う計画を区域施策編で策定していく ・市の1部署で考えていくのではなく、地域全体で考えていかなければならない。
鈴木会長	質問やご意見はあるか。
大庭委員	1枚目の福津市の2013年のCO2排出量の部分で、家庭部門の1番最近のパーセンテージを教えてください。

事務局	令和3年が21%。
大庭委員	大野城市の方が福津市よりも人口は多いのにCO2排出量の家庭部門は少ないが、どういう対策をとっているのか。
事務局	大野城の方で上げられてるのは、家庭ごみや事業ごみの排出量の削減を、事業所に訪問して推進したり、家庭にお知らせをしたりしている。 あくまでも割合であって、量が減ってるということではない。
有田委員	14ページのCO2排出量の経年変化を表してる図があるが、2013年と令和2年を比較すると、産業部門・業務部門・家庭部門は、それぞれ減っている。ただ最後の運輸部門のほうは、ほとんど変化してない。もしここで今分かれば、産業部門、そ・業務部門・家庭部門でそれぞれどのような努力をされたのか教えてほしい。
事務局	分別が進んだとか、ごみの排出を減らす努力をしてもらっている、啓発が効果しているというところがあると思う。 全体的には減少傾向にある。
豊貞副会長	部門別だと、ごみの削減などは廃棄物分野のほうになる。
事務局	家庭部門でもちよっとちよっとずつ努力をしてもらっているのかなと。今新築の住宅が市内に結構多く、新築の住宅の太陽光の割合が非常に高いというところも一つある。 ただ福津市の場合は、自動車に依存しているところが多いので、運輸部門に関しては変化していない。
鈴木会長	恐らくCO2排出係数の低下が大きいというふうに見たほうがいい。同じ量の発電をするにしても、化石燃料を使って発電する場合と、例えば原子力を使って発電する場合では、発生するCO2の量が変わってくる。発電の構成が変わると、自治体として特に何もしない状態でも増えたり減ったりする。この10年間は何もしなくても、排出量が減っているが、今後も減り続けるかというのと、そんなに削減が期待できない。どちらかというところから、例えば2030年2050年までをどうやって減らすかということが、非常に大事になる。今後の計画の策定については基本的にはそういう見方をしたい。

大庭委員	20ページの緩和策の例で、森林を増やすというふうに書いているが、福津市は削っている。これは入れる必要があるのか。
事務局	これは全体的な例示であって福津市の例示という意味ではない。
大庭委員	緩和策の例としてここに入れる必要があるのか。
事務局	森林を増やすというのはCO2を吸収するという意味での一般的な緩和策の例ということ。
鈴木会長	先に策定スケジュールまでご説明いただく。
事務局	区域施策編の策定スケジュールについて説明。 ・プロポーザルで決まったNTTビジネスソリューションズと、国の補助金の交付決定を受けてから正式に契約を結んで進めていく ・令和7年度5月か6月に環境審議会を実施し、諮問を頂く ・10月から11月あたりに答申 ・12月頃にパブコメ、令和8年1月に策定予定 ・環境基本計画策定委員会（環境審議会と同じメンバー）と環境審議会を合わせて3回行う
鈴木会長	関連性が強い議題となるので、先に環境基本計画のスケジュールもあわせて説明いただく。区域施策編については後でまた改めて討議させていただく。
事務局	第三次環境基本計画の策定スケジュールについて説明 ・福津市環境基本計画は平成29年3月に策定されており、計画期間は令和8年度までで、一度令和4年の3月に見直しを行っている ・事業者などに関わってもらわずに、市職員が計画を立てるので、従来のようなお金を使ったデータ収集ができない ・第二次環境基本計画のコンパクト化を進めていく ・区域施策編でとるアンケートに、環境基本計画に関連する質問も含める ・令和7年5月か6月に区域施策編と同時に環境基本計画策定委員会で諮問 ・令和8年8月に中間報告、10月11月頃に答申をし、令和9年3月頃に策定予定

鈴木会長	資料の29、30ページのアンケート案は、前段の区域政策編を想定したもの。その辺りを念頭に入れた上で協議に移らせていただく。
有田委員	市民にとって分かりやすいアンケートをつくらなければならないという視点からも住民アンケートの質問項目については、審議会のメンバーの意見も聞いていただきたい。
事務局	誰が見ても分かりやすいという部分についてはある程度精査していきたいと考えているが、アンケートの質問事項が多くなってしまうと逆に返ってこないため、検討させていただきたい。
鈴木会長	スケジュールの確認だが、環境審議会、基本計画策定委員会が5月から6月の間に開催予定になっていて、アンケート調査は、そのタイミングでは発送されており、かつまだ集計が完了してない認識になるのか。
事務局	そのような認識になる。一か月程度。
鈴木会長	5月6月の段階ではまだ案がない状態での審議になるのか骨子案が出てくるのかどうなのか。
事務局	骨子案が出てくるとか、ちょっと説明できるかなとは思う。
鈴木会長	それがまず出てきて、市民アンケートの調査結果を踏まえて、それをフィードバックさせたものが、9月の中間案として出てくるということになる。スケジュールとして、この辺りを支援事業者の方とすり合わせ頂いて、非常にタイトになるなので、上手にそこのスケジュールを立てる必要があると思う。
豊貞委員	アンケート調査に啓発の要素を入れることもできる。 21ページに脱炭素の図があるが、これもどこから持ってきたのか。
事務局	前任の職員が作成したもの。
豊貞副会長	前段で、家庭部門と運輸部門を減らさなきゃいけないということだったが、この絵の中に家庭部門が全くないことが気になった。

事務局	全庁的に職員に対して行っている研修でつくった資料で、具体的な精査をまだ行っていないため、そういった資料としてみていただければと思う。
濱委員	アンケートは全市民向けに行われるものか。
事務局	おそらく抽出になると思う。
濱委員	どのくらいの回答を想定しているのか。
事務局	今から協議していく。
大庭委員	どのくらい回収できたとか、前回の実績があるのか。
事務局	今手元にデータがないため、次回は用意しておく。 今回は紙ベースだけでなく、電子媒体を使いながらのアンケートを考えている。
鈴木会長	区域施策編について、計画自体の妥当性に関する審議がまずすごく重要で、いかに市民の方に分かりやすく伝えるかというところが、ほかの計画に比べても相対的にはるかに重みが強い。この春の実施を目標に慌てて市民アンケートをとってしまうよりは、逆にまずは計画の骨子案をつくってから、啓発の役割も持たせてアンケート調査を実施するのも一案ではないか。いずれにしても実施するのであれば、位置づけや目的をきちんとしないと市民アンケートの結果が全く反映されない状態で骨子案をつくらないといけないというところが気になるので、ご検討いただければ。
村上委員	環境基本計画は10年で改定を想定しているが、区域施策編は、何年で改訂するのか。
事務局	いつ改定するのかというスケジューリングは考えていない。
栗田委員	スケジュールありきで進めると、似たりよったりの地域性とか、配慮されないよう金太郎あめみたいな施策編ができて、それをどう血の通ったものにしていくかというところが、この審議会がある意味なのかなと思う。そこまでちゃんと視野に置いてやってますという態度があるのとないのでは全然印象が違うかなと思う。
事務局	市のほうもお金がないという状況の中で、基本的には住民や事業者への啓発になると思うし、お金をかけずにどうやって

	行動変容を起こさせるかとか、そういったところを今考えていかになくちゃいけないという状況であるということを踏まえておいていただきたい。
豊貞副会長	市職員の手で計画を策定する必要があるということだが、福津市の事情なのか、それか国から言われたのか。
事務局	福津市の事情。
長濱委員	この10年で、福津市での課題がよりバラバラになっていて、地域ごとに抱えてる問題は10年前のこの計画をつくったときよりもかなり変わっている。地域社会自体がばらばらになっているような危機感があるので、前向きな方向で解決できる工夫をしていただければと思う。
村上委員	福岡県の年平均気温上昇割合が日本の年平均気温の二倍という話が衝撃的だったので、大きな事業所として、市民への啓発の際に使わせてもらう。イオンで自動車メーカーが展示・販売しているが、日産のサクラという電気自動車が福津ではよく売れる。福津市民の環境に関する意識が高いということ。
鈴木会長	生物多様性、ブルーカーボンを区域施策編の中に盛り込めるかどうかはクリアしておく必要があると思うが、事務局としてはどう考えているか。
事務局	カーボンクレジットとかとの関連性で、載せれるのか載せれないのかとか、クリアできるのであれば、ぜひ載せたいと考えている。
○その他	令和7年5月か6月ぐらいで環境審議会開催予定
○うみがめ課長挨拶	
○閉会宣言	